

Q1:この前、朝自宅で坐禅をしているときに、本当にこの考えって自分ではないなと思って、

A:うん。

Q1:じゃあ、自分ってどこにいるんだろうって思って、

A:はい。

Q1:考えじゃないし、体じゃないし、名前じゃないし、

A:うん。

Q1:ないなあ、と思って

A:はい。

Q1:それで坐禅を終えて、家を出て、そしたら、

A:そしたら、

Q1:周りの人も自分と同じ……自分じゃないな、何が自分なんだろうって思ったときに、静かに観てる何かがあるなあって思って、周りの人を見たら、周りの人も同じものを持っているような気がして、

A:はい。

Q1:本質的に持ってるものが同じということは、みんな私?みたいなふうに思ったんですけど、

A:そうそうそう。いいじゃないですか。ちょっと惜しいんですけどでも、いいじゃないですか。

Q1:でも今日、住職の法話を聞いていたらまた訳わかんなくなっちゃって、

A:あらあら。ちょっと惜しいんですけど、いいじゃないですか。そうなんですよ。

Q1:結局目覚めるって、聖人みたいな、悟りきって、怒りもしないし、ずっとニコニコしてるみたいな感じになるのかな、というのがどこかにあってでも、そんなふうになれないなって、

A:うん。

Q1:常に、頭の中で誰かを批判していたり、批判する対象がいなかったら、昔のことを思い出して、

A:うん。

Q1:あのときのあの人はほんとにイカンみたいに言ってる自分がいて、もう無理だなと思って、

A:まあまあまあ。ちょっとね、話の腰を折るようなんですけど、一方で、あなたの仰りようは、いいと言えばいいと思うんです。聖人君子みたいになりたいとか思っている、とかそういうのが目覚めるってこ

とだろうと考え過ぎていると、その変な、無理矢理作った道しるべみたいなものに圧迫されて、いいことにはならないでしょうから。他方で、今現状、歩いている螺旋階段も、たまたま今立っている階段において、この頭の中は誰かへの批判でとにかく渦巻いてるし、それに囚われないことは今できるでしょう。できるにしても渦巻いてるし、こういうのがなくなるなんて到底考えられない、と。でも多分前は、そもそもそういう批判が渦巻いていることに、執着しないで済むとか、そんなことすらまったく想像できなかつたはず、です。3年前とか4年前とかは。つまり今立っているところから、常に、前提として、これが仮に変化してもこれくらいまでしか変化しないだろうとか、想像するんですけど、それを、あなたの主観を外したところで、ありのままに観ているわけではなくて……あ、つまり、そうですね。今日の法話のせいで混乱してしまったというのは多分事実で、それは一方でいいことなんですけど混乱してしまったのは長い目で見ると。でも他方でちょっと申し訳ないなと思わなくもないのは、さっき仰った、外を観るときみんな自分と似たような感じというのは方向性としてその見え方は、その、生きものの互換性みたいなものと言いますか、入れ換え可能なんですよ、自在に、本当は。本当は自在に入れ換え可能なのに、全然入れ換えできないように見える理由は何か、という、私たちの意識がこの体とかこの脳みそに縛りつけられているからです。今、最新最高、最強の新興宗教があります！それは何でしょう？と申しますと、脳科学です。これはメチャクチャ危険な代物です。まあ、実は脳科学も利用させてもらって、皆さんに伝えるのに役立たせてもらっていますが、脳科学というものの何が危険かというと、「脳みそが私である」という最新の宗教を流布していて、その宗教にみんな洗脳されているからです。それに洗脳されれば洗脳されるほど、この脳みそのやることから離脱するということはできなくなります。

なのですが、それから離脱したときに、「ただ観てる何かがあるな」って感じた、と仰いましたよね、それがズバリ「空」なのです。空はただ観てるだけで何の内容もない。ただ観てるだけの、超越的な機能です。それは脳みそにはまったく依存していません、し、体にもまったく関係がありません。ので、どの脳みそにも互換することができますし、どの体

にも、どの動物にも互換することができるのです。ですから、アリンコもワンワン鳴いてる子も、ニャンニャン言ってる子も、カサカサ這い回るキッチンの子たちも。ですから同じように……、体であって、情報処理機械であって、みんな生きてるな、という感じなんです。

そのような互換性を持って見られるようになったのは、「私」という観念が「これが私」って、おそらく多くの方が体か脳みそ、脳みそも体の一部に過ぎないんですが、を対象に執着しているからなのですが、どれも執着しようがない、という思いで「私」というものを見出さなければ……、惜しいと言ったのは、「どれも私」と言っても、これが私じゃないからあれも私これも私それも私って言うだけで、でも突き詰めてみれば、それも私じゃないしこれも私じゃない。でも、新しく見出したあの人もこの人も私ってのも、どれも私じゃない、もうどこにも居場所はない、というのが行きつくところ。どこにも居場所はないので、みんなただの機械で、同じようなもので、これをものすごく特別扱いする、この機械を他の機械と比べて特別扱いする必要はないのです。という思いが高まってくれば……あ、定着させることが重要、かな。一時の気づきで突き抜けた感じというような感じより、それがいい具合にほどよく定着、そこまで究極的に突き抜けた感じにまで行かなくても、もっと柔らかいかたちでもいいので、ほどよく定着させるにつれて、「これにだけ特別な利益をどえらく集めなきゃいけない」とか「他には損害がいつでも構わないけどここにだけは損害を絶対来させたくない」とか、そういうのに夢中になる必要がなくなってくるので、夢中になる必要がなくなるにつれて、「ガードしなきゃ」というのが弱くなって行って、他との垣根が少なくなっていきます。また「利益を集めなきゃ」という気持ちもなくなりもしないにしても、薄くなっていくにしたがって、その集めるために他との間に障壁を立ててしまったりガタピシしてしまうのが、なくなるにしたがって、世界とか、他の人も世界の一部ですけども、世界とこことの間に垣根がなくなって融通無碍な感じというか、やわらかーい感じになると、雑な言い方をすれば楽になってきます。楽になると、楽じゃないから批判する考えが渦巻いてたり、過去の癖です、ただの。今新しくあまり積み上げていないはずで、執着することを。ですから、

過去にあなたが批判をメチャクチャいっぱい積み上げてきた分、積み上げていない人と比べると、そういったものは反芻しなきゃいけない。つまり、今日も申し上げましたが、因果律っていうのはものすごく厳格に作られていて、日本国の法律は多分ザルなので、それをうまく抜けて法の目をかいくぐって脱税するとかは可能ですし、生きてる間に脱税がバレない可能性もあるにはありますが、仮に脱税がバレなかったとしても、因果律はものすごく厳正に働きますので、その報いは100%、その帳尻を合わせるようなかたちで受けますし、かつて人の批判をしたり文句を言ったり「嫌な人たちだ」って考えてきたとしたら、そのパワーが心の中に溜まっている分だけの、今修行をして心がクリアになってきているから、その借金は全部チャラね、とかそんなふうには、いきません。かつて業を積んだからには絶対に、つけは払わされる、ので、そのつけを払うべく今、頭の中で嫌な考えが反復して気分が害されますけど、それに執着してもまたそれがあとで報いを受けます。でも今執着せずに済むでしょう、「私じゃないし関係ない」って見ていられれば。それはやっていたらやっているほど、加速度的に借金は返していきます、かつて積んできた業は。

一方では、この無我が分かってくるとか、私っていないと分かることで心がクリアになって、他の人を入れ換え可能になって、他の人の中にバツと入ってしまう。それでメチャクチャ成長したって、確かに成長しています。でもそれを過信しないことです。その意味の、修行レベルの向上と、かつて積んできた業を返していくこととは、別次元で……あ、もちろん関連していますし、修行が進むことがその借金を返していくことに直結はしているんですが、でも進んだから、「進んだ私はこれらの借金をもう払いません」とかそういうことは絶対にいかないようになっていきますし、また、皆さんの中には疑問に感じるかたもいるかもしれませんが、その疑問もまた因果律に従って起きただけなので、それすら包含されるようなかたちで因果律は完璧です。

つまり、ある意味修行が進んでくると借金を返す速度が速まっていくようなところがあって、あの借金もこの借金も、10年払いの予定だったのが、もうそれ1週間で返しなさいみたいな感じになるので、ものすごい速度で、その、かつて積んできた思考が反復される一時期があったり、身体的につけを払わ

されたり、場合によっては、「なんで修行がこんなにうまくいっているのにこんな重病に陥るんだ」って感じるようなこともあるかもしれませんが、「なんでこんなに修行がうまくいっているのにいきなり車にはねられて重傷を負わなきゃいけないんだ」って感じるようなこともあるかもしれませんが、ある意味、そのつけをどんどん払ってしまえば、10年払いで、もしくは死んだ後払いで緩慢にずーっと払っていくのを一気に払い終えることができるのです。

ですから、今こんなに反復してるし、これが消えるなんて想像もできないともし一方で思っているとしたら、それはある地点で、「あれ？前はそんなふうに思っていたのに、全然なくなっちゃったな、枯渇しちゃったな」って感じる時、来るのかもしれませんが、でも来る可能性というのは十分にあることでして、だからと言って聖人君子になるわけではないでしょうけど？笑。聖人君子になるわけではないにしろ、この批判するクセみたいなのは絶対落ちないだろうっていうまですら先行を低く見積もらないでほしいと思います。

「聖人君子になれる！」というのは高く見積もり過ぎて、「この批判するクセは絶対抜けないだろう」というのは、低く見積もり過ぎな気がします。

Q1:批判が抜けないなと思ったら、もういいやと思って、批判すればいいやと思って、まかせていたら……。聖書に、神様は、あなたの髪の毛の本数まで知っているくらい愛していると書いてあったなと思って、

A: ふんふん。

Q1:本当かなと思ったら、本当だよって聞こえてきて、え？と思って。そしたら、あ、神様いた、と思って。いたのに、ずっとピッタリくっついてたから自分だと思い込んでいて気づかなかった、というふうに、

A: ちょっとそこ、もう一回言ってもらえますか？20秒くらい巻き戻してください。

Q1:神様が私の中にいた、と思って。

A: あ、中に。ああ、良かった良かった。ふんふんふん。どこかにそういう神がいて、電波を送ってきたとかそういう話じゃなくてああ、良かった。笑

Q1:言い方を、間違えると大変だなと思いながら、

A: そうですね。ただ見守っている、全知全能のものを
見出したでしょう。

Q1:でも、いいよとか、そうだよとか言うんですけど、これはおぼさんですか？

A: ああ、言わばね……。それはおぼさんの中の霊媒師。いや、ホントですよ。おぼさんと言っても訳分かんない人も、中にはいるでしょうね。頭の中のいろいろなお喋りをする神経細胞のネットワークがあって、そのネットワークの一つ一つを、おぼさんがお喋りをして、井戸端会議をしているようなものだ、とたとえたことがあるんですけど、おぼさんの声の中の一つの声が、神が言っているように見えて、「それでいいや」とか「すべて大丈夫だよ」って思っているのも、神がそこにいるわけじゃなくて、おぼさんのお喋りに過ぎないんじゃないのかな、という質問だったんですけど、それはこう答えてみましょう。私たちの頭の中には、高級なおぼさんと低級なおぼさんがいます。低級なおぼさんは、人の悪口とか粗探しとか問題点とかばかり言って、ぶちぶちぶちぶち言ったり、自分の子供の素晴らしさみたいなことばかり喋り続けて、人をうんざりさせます。本物のおぼさんもそういうことをしがちですが、おぼさんの頭の中も実はうんざりしています。つまり、こういうことばかり喋って、「人に自慢話ばかりしてるんだなあ」って、おぼさんの中の脳細胞の高級な部分はうんざりしたり、しています。その高級な部分に気づけていないだけです。でも、高級な部分はある程度高級でもありません。なぜなら、他の部分に対してうんざりしたりするからです。「お前は低級だ」ってうんざりしたりする、というのは低級な証拠だからです。

頭の中にはしかし、もうちょっと高級な領域があります。その高級な領域は、諸行無常を理解したりしますし、無我っていうのを頭で考えたりしますし、八正道って考えたりします。ですがそれは高級なことを考えているだけです。

それよりもっと高級な領域があると言えます。一番高級な領域……。諸行無常とかを理解する領域はかなり高級ですけど、もう一歩高級な領域は……。霊媒師です。霊媒師は、現実の霊媒師さんには多分、これは間違ってるかもしれませんが個人的な印象だと、7割くらいの商売でやってる偽者の霊媒師さんがいて、3割くらいちゃんとした霊媒師がいるよう

な気がするんですけど、その霊媒師としてちゃんと機能するためには、「私がこう思う」というのを全部パツと捨てるから、他の意識が入ってくるということが出来る、ということですね。まあ、その本物の霊媒師の話はちょっと置いておいて、頭の中の言わば、……「空」そのものは、ただ完全に見ているだけで、完全な安らかさと、完全な包摂と、ただすべてを受容しているだけであって何も一切、言いはしないので、「受容するよ」とかは言ったり動いたりはないんですけど、ところが霊媒師は、その完全な包摂とか完全な智慧とかを脳というちゃちな機械のレベルへと落として言葉のレベルで受信して、他のおばさんたちが理解する、言葉のレベルに落として喋ったり神憑りになったりはします。「神憑り」とかちょっと……なかなか、その言葉を使って大丈夫かどうか、若干の疑問がありますけれど……。注意深く聞いてください。

Q1:神、軽くない?とって。

A:あー、

Q1:いーよーとか、分かったよとか、

A:それは、あなたの脳みその中の霊媒師が軽いんです。神が軽いのではなくて、あなたの脳細胞の霊媒師が軽いから、その霊媒師の質に応じて軽いだけです。

Q1:顔文字みたいなのが出てくるんです。

A:それも現代人として、携帯電話やらを触っている、あなたの脳細胞に染みついている、あなたの中の脳細胞の霊媒師の高級なおばさんたちが、そういう現代社会に汚染され過ぎていて、そういう言語に翻訳し過ぎるだけのことで、そのおばさんたちが、もう少し、あなたのこれまで積んできた生活の、現世的な癖への汚染から、徐々に脱色されてくるにしたがって、その霊媒師の喋り方や、どんな言語を使うか、ということは変わっていくはずですよ。

というようなことで、それは神そのものではないんですけど、神の預言者のようなものです。

ところで、またぶっ飛んだことを言って良ければ、聖書に書いてあるイエスというのは、教会の都合によって……あ、もちろん原始仏教の経典だって、仏教界の都合によっていっぱい書き換えられていますから、元のブツダの声なんてほとんどどこにも聞こえませんが、原始仏教の経典はそれでも多分2割か3割くらいは元のブツダの言ったことが残っ

ていると思われるんですけど、イエスさんのほうは相当悲惨で、元々言っていたであろうことは、多分5%か10%くらいしか残っていない、と想像されま

す。……ですが、聖書ってまあ、20ページくらいしか読んだことないですけど。笑
ちょっとだけ読んでみると、ですね、……彼も完全にこの神の領域にアクセスしていたのかどうかは、アクセスし続けていたかどうかはよく分からないんですけどただ、その頭の中の霊媒師の領域をかなり、明確に働かせていたと思えて、その、そこに聞こえてくるものを言っている、という感じはしますね。ところが、キリスト教会の都合にとっては、何か外在物としての白いひげをはやしたおじさんのような姿をして、人格をそなえた超越神みたいなものがない、それが全部作っていて、支配しているみたいな話に書き換えないと、いけなかったんだと思うんですけど、そのような意味で、あなたが、神はすべて愛していて、髪の毛一本まで知っているというのを、教会の都合ではない意味合いに読み解くなら、それは間違っていない、と思いますし、その「私」というのを外しているときに、喋りだす頭の中の霊媒師の領域の言っていることは、執着する価値は結局ありませんが、しかし間違ったことは言っていないし、聞く価値のあることです。

Q1:ときどき、そういうことが起き出して、部屋でボーッとしたり、白隠禅師の坐禅和讃が聞こえてきて、

A:ふーん。それを唱えたことがあるんですか?

Q1:ネットかなんかで見たことがあって、それをまた思い出して、ネットで検索して、

A:おやおや。

Q1:現代語訳を見てたら涙が出てきて、有難くて手を合わせながら、私大丈夫かなと思ったり、神がいたなと思ったときも急に泣けてきて、これはおかしくなったのかなと思いつつ、

A:おかしくなっていないんですけど、執着しないようにしてください。その諸々の霊媒師の告げるメッセージに執着すると、おかしくなる可能性がゼロとは言えません。執着せずに流していれば、空の体験はより精妙になっていきますし、それらのメッセージに夢中になるなら、そこで進歩が止まるでしょう。執着しなければ、その霊媒師のメッセージは、とてもいい具合に意識を助けてくれます。執着

すれば、イタコみたいな感じになる可能性がゼロではありません。それはそれとして、あなたは神託を告げるイタコとして、それなりに活躍できそうな感じになんとか見受けられますし、教祖になって、「次のご神託は何ですか？」って政治家がやってきたりして、「ふむ、お前の髪の毛一本まで愛していると神が仰っている！」「有難いことです。これで明日からも政治が頑張れます！」って言って、帰っていく感じになるかもしれませんけど、まあそれよりもあなたの平穏としあわせを発展させていくことのほうが大事だと思います。でも、路線は間違っていないと思いますよ。執着しなければ、はい。その言葉に夢中になって入り込んでいかなないようにしてください。眺めてみてください……あ、つまり、それをつまり神の言葉だと思わないでください。神は言葉を発しません……この意味の神は、ですよ。ただの法則そのものだからです。徹頭徹尾すべてを完全に包摂している因果律そのものが、仮に言葉をあてるならそれが神なのです。ないしは、それを突き詰めていくと「空」なのですが、それゆえ、それは何も言いません、し、命令して来たり、何か「許す」と言ってくれたり、褒めてくれたりはしません。ただし、それは言葉など抜きに端的にすべてを許しているという性質を持っています。それを人間の言葉に翻訳、そこにギリギリアクセスしているとき、頭の中の最も高級な部分は感応して何かを言い始めます。それを言い始めているのがたとえば法話になったりするのは。たとえばあなたの中の、「すべて大丈夫だよ」というやさしいメッセージになったりするのは、それは神の言葉ないし空そのものの言葉ではないのです。空は何も喋らないからです。そこにレイヤーを混同しないでください。それをあくまでも頭が翻訳して、おばさんが神憑って喋っているのだけという、それは神の言葉ではなくて、神の言葉を変圧して変電して、霊媒師が喋っているだけで、神の言葉ではなくて、言い換えれば預言者の言葉です。

預言者っていうのは、神から言葉を預かって、言葉にならないものを翻訳して、言葉にして、もしくは、人間を越えて超越的なエネルギーの塊と言ってもいいですが、そのエネルギーの塊を、人間に分かる次元のエネルギーのレベルに下げて、下げる変電器のおばさんが喋っているだけだなんてことです。そ

して、圧倒的な実在を、言葉のレベルというか脳というちゃちなもののレベルに下げた時点で、どんなにすばらしい預言も、たかが知れています。それを分かっておいて、「神だ、これが神だ」って執着しなければ、大丈夫です。

大丈夫でしょうか？まあ、イタコの神憑りの、教祖にはならんといってください。

Q1:新興宗教の教祖さんはそういうふうにして生まれるのでしょうか。

A:本物の新興宗教はそうです。たとえば、大本教でしたっけ。あの神懸ってる人が言っていることを、部分的に見てみると、真つ当なことを言っていて、何を契機にそういう場所にアクセスしたのかは分からないですし、その場合アクセスの仕方が雑なせいで混乱も見受けられたりするんですけど、ただああいう真つ当な新興宗教の場合は、何らかの本物に接していますしそういうものですが、ただし神と、その預かっている部分と、大概の場合は混同しているので、その混同に基づいてちょっとおかしな部分がチラホラ、含まれていますし、そのおかしな混同が含まれないほど純化されていっていると思うんですけど。おそらく、原始キリスト教はその意味でかなり純化された、預言者と神が別です。イスラム教の場合も一応形の上では、預言者と神が別になっているんですけど、その神っていうのが物語化された、抽象度が高いものになっているので、そういう宗教の、元の持っていたエネルギーみたいなものは失われていると思います。はい、仰る通りだと思いますよ。

Q1:分かりました。ありがとうございます。

A:一言だけ皆さんのために付け加えておくと、そういうメッセージがどれだけインスピレーションを与えられようと、そのインスピレーションを真に受けるところから、個別の宗教が生まれます。そのインスピレーションを真に受けなくて、それをそれとして認識して利用しつつも、「そういう考えが頭の中に生まれているだけだな」と見送っているところに、個別の宗教に囲い込まれない道がそうします。仏教にすら囲い込まれない。ただ、私たちは孤独な道を歩むだけです。この孤独なただ道を歩む、仏道も歩みません、究極の意味で言えば。仏道とか仏教とかキリスト教とか何々教とか、新しく何々教を起こすわけではなくて、ただ道を歩むだけ、なの

です。それは手っ取り早くないですし、ある意味で言えば仲間はいませんが、その意味で言えば仲間がいまませんし、孤独な道行きですし、何か手っ取り早い安心は得させてくれませんが、どこかで、「あ、こういうことね」ということにして終わらない道、ですね。

と同時にでも、そういうふうには、どこにも属さないただの道というところから、本当に公平な目で見てみると、一見メチャクチャなことを言っているように見えるキリスト教ですら行間を読めば、元々これだけすごいエネルギーを秘めてたんじゃないかな、っていうものも読み取れますし、それをつまらない偽物だとか物語だとか言って非難するという、低級なおばさんになるわけではなく、そこから最良なエッセンスを読み取ることだって、できるようになるはずですよ。

--

Q2:お話を伺っていて、多分自分はその低級なおばさんが元気なんだろうなと思ってる場所があって、

A: はい。

Q2:その中でその、因果律というのが強力に効いているんだとすると、修行という言葉が頻りに仰つていたと思うのですが、

A: はい。

Q2:それで自分は、何に干渉をできているのかが、腑に落ちていなくて、

A: 何に干渉を、と仰いますと？

Q2:因果律によって、その低級なおばさんがすごく元気なのだとしたら、そこに逆らうというか、そこを脱却するというか、その答えも果たして修行？なのか、というのがよく分からないというか……

A: ああ、お尋ねになりたいことがよく分かりました。実はですね、そうあなたが疑問に感じることも因果律に基づいて疑問を感じますし、今質問しようとしたことも因果律に基づいて生じていますし、この答えを聞いて何を感じるかも因果律に基づいて生じていますし、因果律から脱却しようと思ったのも因果律に基づいて思いましたし、因果律から脱却しようとしても脱却できないし抵抗しても無駄なんじゃないだろうかって思うことも因果律に基づいて生じているのです。つまり、「因果律から脱却しよ

う」という考えが、根本的に間違っています。なぜなら、「脱却しよう」という思いも、因果律の中でしか生じないからです。

しかし、おそらく、あなたを含めて、とても多くの人が、因果律に基づいてこういう、今の精神上、心の癖がついている。だから、因果律から脱却しようと思ってしまう、でしょう。つまり因果律に「否」を言いたくなってしまう、ということです。因果律に基づいて生じている今の感情に「No」と言いたくなっているのです。

そして、因果律はとても巧みに構成されているので、今起きている感情に対して「No」と言いたくなる気持ちも上手に利用して、その気持ちが続いていくように因果律が作られているのです。

修行というのは、「修行して因果律を否定してジャンプしよう」と誤解しがちなのですが、修行とはそういうものではなくて、「因果律はこう働いて今こうなっているんだな」ということをただ、ありのままに観るだけ。ただ、観ていけば、徐々に徐々に、「今これが生じたのは、前のこれが原因でこう生じたな」という因果律が、徐々に徐々に見えてきます。見えてくれば見えてくるほど、見えていないときと比べて、その……仮にこう表現してみましょう。因果律をいくつかのレイヤーに分けて説明してみるとすれば、この感情に囚われて、前の感情がこうであったがゆえに次のこういう感情が生じる。批判したい気持ちとか、嫌悪感が生じる、という原因と結果があるとしたらですね。それに対して、ただ観ていて、「ああまあ、ただそれは因果律に基づいて生じるだけだから、どうでもいいことだな」という感じに、執着せずにただ観ていられるのがもし、分かってくれば、その感じというのは、まだよく分かりませんか？観ていられる。怒りが湧いているけど、ただ向こうにある怒りを観ていて、観ているこちら側は怒ってないっていう感じとか、

Q2:坐禅を組んでいる最中だけは、もしかしたらこの感覚かもな、という瞬間はあります。

A: その感覚が少しでも、少なくともまずは坐禅のときに分かるのが大事です。坐禅のときに分かったら、坐禅のときに分かるときと分からないときがあるのを、いつも分かっている感じに、次はして行って、それがだんだん続いてきたら、坐禅をしてないときにも、それが続くようになってくるように努めてい

くこと、それが修行ですが、要は修行というのは、そうやって因果律に基づいて次から次に起きる現象に対して、普通私たちは引っかき回しがったり、良いようにしがったり、悪くならないようにしがったりしているんですが、それは要は、「こうなりたい」という欲求とか、「こういうのは嫌だ」という嫌悪感に過ぎません。

ところがこの因果律の階段について外に出て、外から「これは嫌だからこう変えたい」と思ったとしても、実は「そう変えたい」って思うことそのものが因果律の外には出ていなくて、ただ「こういうのは嫌だから変えたいよー！」っていう煩惱の結果が、かつて作った原因に基づいて生じているだけで、この階段の外には出ていない、ということですね。

ただし、そのように因果律が生じていることを、「こうしよう」とか「ああしよう」とか「こういう感情に変えたい」とか「こういう立派な状態になりたい」とかいうのはやめて、「ただ、そういう思いが湧いているね」と観ておくれ、のところに心が留まるように、まずは修練を続けてみるのです。それが、ここで言っている「修行」という意味です。

これがもし、少しずつ少しずつ分かってくるなら、そのようにただ観られているとき、因果律にしたがって今生じた結果としてのイライラする気持ちとか、「もう怒ったぞ」という気持ちとか、「あの人は間違ってる」という気持ちとか、……ちなみにたまたま今話していて、「もう怒ったぞ」という言い方が出てきたのも、私の過去に多少関わっていて、高校三年生のときにやっていたゲームセンターの、何かの格闘ゲームで、攻撃されて怒りゲージが溜まってくると、女の子のキャラクターが「もう怒ったぞ」って言って強くなるんですけど、それがなんとなく今、覚えていたせいでぱっと出てきた、これもかつて染み込んだものの因果律ですけどね。別にそれを今生み出そうとしたわけではなくてただ結果として出てきた。というのを、「ああ、そう出てきたな」と観ておいて、執着しないようにしているなら、かつては執着したので染み込んでいたのです。この、「執着せずにとただ観ていられる」という感じが、徐々に定着してくると、原因がある以上結果は出てきます。ですから、かつて嫌悪感の原因を積んでいたり、自尊心の原因を積んでいたり、優越感とか反対に劣等感とか、の原因を積んでいけば、坐禅をしていけば坐禅を、ある意味道具にして、坐禅に

因縁をつけるようなかたちで、坐禅をきっかけに優越感が出てきたり劣等感が出てきたり、ということが、繰り返されるはずですが、それは多分、坐禅をだしにしているだけの話で、元になっているのは、過去に積んだ優越感や劣等感で、それが出てきてときに、またはまって執着すれば、また再び染みつくので、やがてまたそれが現れてくる原因になるだけなのですが、ただ優越感や劣等感が因果律に基づいて自動生成しているだけで、これは私ではないし、私が生み出したのでもないし、「関係ないな、全く関係ないな」って、本当に、頭で思うのではなくて、腹の底から「関係ないな」って感じられるような観方で観られるように、修行が進展してくるにしたがって、そのように観ているとき、優越感が湧いてくるとするじゃないですか。たとえば、「オレの坐禅、いい感じだぞ、立派だぞ、成長したぞ」ともし思ったらそれは優越感ですし、「今日のはうまくいかない、ダメだな自分って」って思ったら、その劣等感、今ゼロから生み出したわけではなくて、かつての劣等感の反復です。その輪廻が今生まれたときに、「あ、ただ生まれただけで、関係ないな」ともし観ていられたとしたらですよ。そうしたら、かつて埋めたどんぐりが、今優越感のどんぐりの芽としてピュッと出てきたり、かつて埋めた劣等感の栗の実が、劣等感の栗の芽としてピュッと出てきたとして、「関係ないな」と観ていられたとしたら、その芽は生き生きとともっと生えると思いますか？ それとも枯れると思いますか？

Q2: 枯れそう……ですね。

A: そうです。枯れるのです。今あなたの取り組みは「枯らそう」としているのです。枯らそうとしていると、どんぐりに対して関心があるでしょう、「枯らしたい」という。その関心が因果律に取り込まれるんですよ……ああ、でもその言い方は適切じゃないな、「じゃあ、取り込まれないようにしましょう」って思っちゃうでしょうから。そうではなくて、「枯らしたいよー」って思っている気持ちが因果律の一部に自分の欲望として生じていて、それも過去の原因で生じているんですけどね。そういう気持ちで執着しているせいで、はまり込んでいるので、はまり込んでいる以上それは枯れずに、それを栄養にしてもっと強くなって、またそれが原因になって、新たなその木が、新たなどんぐりを実にならして落ちて、また

生えてくる、じゃないですか。

でも、「勝手に生えてきただけでこれは関係ないな、過去の単なる因縁で生じているだけで、今その借金を払わされているだけだな」って観ていたら、その芽は枯れてしまうでしょう。それが枯れると、それは再生しません。再生しなくなると、階段の向きが変わります。ただ向きが変わるだけであって、なぜその向きが変わるのかという、「執着しない」という結果が新しい原因になって、新しいそのような原因が生じるとそれに基づいて、「それが枯れる」という結果が生じて、結果が枯れると、枯れないことを前提にすればこう進んでいたであろうものの向きが変わるというだけであってそれは、因果律を越えたわけでも、因果律を脱却したわけでも、因果律を破壊したわけでもなくて、「そのように向きが変わる」ということも因果律の中に書き込まれていて、だから因果律は完璧だって言っているんですね。

因果律の外があるんなら完璧ではないですが、因果律の外に出ることは絶対にできない、という意味で、完全に公正ですし、まったく……何て言うんでしょうかね、「こういうことをしましたけど、つけを払わないで済みます」というような余地は、まったくない、ということです、し、反対に言えば、執着をしない、とか、ありのままに観ていて、そこに「自分感」を投影しない、というようなことを生み出すことができれば、「執着しないときに因果律がどのように働くか」という因果律に基づいて、これまで、「この心はこんなもん」って思っていたパターンは完全に組み合わっていきます。それはただ、組み変わるための因果律が働いているだけのことです。

なので、因果律と敵対しようとしなくてください。

因果律……に、ある意味帰っていくこと、です。

因果律は決して敵ではなく、偉大な先生であり、決して離れてゆくことのない完璧な同伴者なのです。みんな実は、因果律を嫌っているのです、誰もが、です。因果律にしたがって与えられる人間関係について「こういうのは嫌だ」と言って嫌ったり、病気になることについて因果律に基づいてなっているのに「何で私が」と文句を言ったり、「なんで私がこの仕事をしなければならぬのだ」って言ったりして、ことごとく世界中の人が因果律に対して、つべこべつべこべ毎日毎日文句を言っているのですけれども、因果律に帰って行って、ただ観るだけに

して、文句を言うのをやめれば、一見すると、因果律がぱっと解消して、因果律の外に出た素晴らしい何か別のものが生じたように見えるはずですが、それは、敢えて言えば、元の因果で生じていた階段が、今まで働いていなかった種類の因果を働かせることによって、今まで癖になっていた、慣れていた因果の働き方と違う、見慣れない因果の働き方をする、見慣れないから珍しくて奇跡が起こったように感じるかもしれませんが、繰り返せば、奇跡でも何でもなくて、それも因果のうちです。

そのような、見慣れないすごい因果を働かせるような特殊能力が実は、意識には備わっていて、その意識は完全にまどろまされていますし、完全に眠って忘却されています。理由は肉体と脳みそに執着しているからです。

昔の人は、肉体に執着していたせいだったでしょう。現代人の場合、肉体に加えて脳みそへの執着が、完璧に洗脳されているせいで、なかなか脱却しづらい、と思うんですけれど、それから脱却したときにただ観ている、という、ただ脳をも観ているだけの、やさしい何かがあるな、というのを見出すと仰ったのは、まさにその通りです。

何かを自分だ、脳を自分だ、肉体を自分だ、と思うところから脱却する。なので、修行の核心はと言えば、あなたの文脈に立ち返れば、低級なおばさんがいっぱいいて、「こういうのが自分だな」と思い込んでしまっている。「こういうのは自分じゃないんだ」と分かってくるにしたがって、低級なおばさんが「わあー！」とか「あかんでー！」ってがなり立てているので、上品なおばさんたちが「でも、諸行は無常ですわ」とか「無我っていうことをお分かりではありませんの？」と小さな声で言っているのはもう全部かき消されて、「あかんでー！」って言っているのばかり聞こえていたのが、「ああこういうのは自分じゃないんだ、関係ないんだ」って分かってくると、上品な声がもっと聞こえるようにもなってきますし、その上品な声に執着すればそこで終わるんですけど、「上品な声も自分じゃないんだ、ただ喋ってるだけか」と聞き流していれば、今言ったようなことが分かってくると思いますよ。はい。

ですから全然、途方に暮れる必要はなさそうですね。

Q2:ありがとうございます。

A: はい。その笑顔は信じます。